

高 伊那北高校同窓会報

発行
伊那北高等学校同窓会
TEL 0265 (72) 7312
FAX 0265 (76) 5585
<http://www16.ocn.ne.jp/~inakita/>
印刷 南マスマタ印刷

10月中に実行委立ち上げ 百周年、組織・事業へ始動

28年度定期総会



同窓会は6月11日、伊那市生涯学習センターで平成28年度定期総会を開いた。4年後の母校創立百周年記念行事に向けて、今10月中に、現在の準備委員会を記念事業実行委員会に衣替えして立ち上げることを決定した。

実行委員会は同窓会、学校、PTAの合体組織となるが、同窓会としては少なくとも年内に細部の組織固めをし、併せて記念事業の具体的内容に踏み込みたいと考えて、実行委立ち上げて全体が始動することになる。

担当副会長、事務局長ら少数でたまたまを策定しており、理事会、現準備委に諮ったうえで実行委に提案する段取り。90周年の例を基に総務、会計、募金、記念史編纂、事業、記念式典、刊行、名簿の各委員会に加え、百周年の節目ということで祝賀委員会も検討されている。従来の経験から各委員会は20〜50人程度が必要で、役員、理事、支部・支会長、学年別代表、同窓会既存委員などに就任を要請する方針。これでも人数に限りがあるので一般会員から公募も組み込んで、全体では二百人近い組織になる予定。

意見も出た。一方で準備期間が限られるため既にスタートしている部門もある。名簿刊行や、活動の記録を標す記念史編纂などは活動に入っている、中でも今回は映像作品(DVD)を出す方向で人選も進んでいる。日本フィルハーモニー楽団を招く記念公演を打診中でこれらの事業内容をある程度絞り込んでたまたまを作り、実行委の場で、組織作りと合わせて討議していくことになる。

総会では、同窓会館館長(事務局長)の手当を、現行年額百二十万円から五割アップし百八十万円とすることを満場一致で承認した。手当は前々館長平出氏から少なくとも二十数年据え置かれていた。現在は同窓会の法人格変更による事務量の増大や、日常事務の拡大で、平日はフルタイムの勤務となっている。同様他校では三百万円近い手当の高校もあったが、今回は最低レベルの松本深志高校に合わせることで落ち着いた。

北條氏が「古墳」で講演

総会に先立ち母校OB(高31卒)で東海大学文学部教授北條芳隆氏が「古墳とは何か」で講演。北條氏は、三世紀後半から日本列島に誕生した前方後円墳について「王権が租税として集めた稲束、種もみへの手間賃として支払い、これが今の公共事業のような効果を生んだ」との自説を披露した。普段あまり聞き慣れない古墳の話に、多くの会員が熱心に聴き入り盛況だった。

(講演内容4P)